

## 令和8年度町村長会議（5月20日）意見交換の概要

令和8年5月20日（水）

15時45分～17時15分

神奈川自治会館3階会議室

### 【開成町長】

まず、持続可能な行政サービスに向けた県の取組について、県西地域2市8町においてワーキンググループを設置していただき、垂直連携を中心に、今後の色々な生産性向上や、人材不足を補うような取組をしていただいていることについて、感謝申し上げます。今後、成果が出るように、開成町としても前向きに取り組んでいきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

次に、GREEN×EXPO 2027について、ふるさと納税の共通返礼品とは具体的にどのようなものか、教えていただけるとありがたいです。

### 【環境農政局長】

今回の共通返礼品は、GREEN×EXPO 2027のチケットを県域での共通の返礼品とするものです。全市町村の皆様の共通した返礼品として、県がまとめて申請しようと考えています。

### 【真鶴町長】

昨年の町村長会議において、犯罪被害者条例の制定について依頼を受けました。その後、県から担当の方にもお越しいただいて説明を受け、先般、条例を制定しました。ありがとうございます。

持続可能な行政サービスに向けた県の取組について、真鶴町でも土木職員を全然採用できません。お金の問題ではなく、職員がいないために工事ができない状況に陥っており、下水の管路を修繕できずそのままになっていたときに、大雨による道路陥没を起こしてしまったという案件があります。そのくらい目に見えて困っている状況ですので、そうした問題に対応いただけるパッケージを考えていただいているということは、本当にありがたいことだと思います。ただ、今回は基本的に土木事務ということで、道路橋りょうなどを想定されているかと思うのですが、水道や下水道分野でも職員を確保できないでいる事務が多いです。応分のお金の負担はするつもりですが、技術職員の不足でできない仕事がたくさんありますので、そうした分野にも拡大してカバーしていただけるとありがたいというお願いです。

### 【政策局長】

まずは土木事務に関して、現場の意見を聞きながら、どうすれば効率的に皆で一緒にでき

るかということ、御意見をいただきながら進めています。水道、下水道等の事務についても派生していきますので、この先、今の御意見を踏まえて、関係の方に来ていただきながら、話を聞いてもらいたいと思います。

#### 【葉山町長】

今の話に関連して、県西部で進めていただいているのは、大変素晴らしいことだと思いますが、是非県東部でもお願いしたいです。どこでも待ったなしの話です。県に人を出してくれという話ではなく、県にも人がいない中だからこそ、その座を一緒に組んで、情報交換するだけでも、お互いに話が進むと思います。是非県東部、政令市も入れて議論をする場があれば本当に素晴らしいと思います。今回、特別市の話をするわけではないのですが、政令市の発表には自分たちの経済発展を近隣に分配するようなことが書いてありました。私たちは近くにいなながら、横浜市から恩恵を受けるという機会はあまりありませんでした。そうした中で、こういった情報交換の機会もなかったなと改めて考えましたので、是非、座組を組んでいただければと思います。これは皆に迫った危機ですから、非常に良い機会になるのではないかと考えています。

次に、私は町村会で神奈川県障害者施策審議会の委員を務めていますので、福祉機構についてお伝えしたいことがあります。福祉機構はあくまで障害のある方の研究をする場と考えた方がいいのかという素朴な疑問があります。名前からすると、高齢者福祉や社会福祉など、福祉の様々なメニューについて、県が外に出て広く連携するというイメージを持つ中、場所が中井やまゆり園にあるということを知りました。当事者目線の条例に基づくものですので、障害に特化していくのかとも思ったのですが、一方で、市町村との連携についても触れられています。目的や実際のビジョンについては、私自身が審議会に入りながらも未だによく分からないところがあります。市町村の福祉担当は皆、縦では色々と連携はしていて、一緒に取り組む関係はありますが、こうした大きな取組の中に、市町村として連携する上で、私たち町村長は、色々な分野での福祉の方が関わられるような県の働きかけがあってもいいのではないかと思います。個人的にこの施設について、中井やまゆり園はこれまで外からしか見られませんでした。中に入って場の空気を感じ、接触する機会があるのであれば、私たちが学びながら、福祉の在り方について福祉機構と一緒に考えていけるのではないかと考えますので、施設見学等の機会をいただけたらと思います。県の方向性を把握できていないので、何か機会があれば、現場でも町村会のこうした場でもよいので、そうした勉強会を設けてもらえたらと考えています。

#### 【政策局長】

県西地域で行っている土木事務のワーキンググループを東部でも実施してほしいという話でしたので、是非検討させていただきたいと思います。また、県西地域で行っている会議のときに、県西の2市8町ではなくても、例えば実務担当者でその場に見学に行きたいなど、

オブザーバーとして見てみたいといった声もあります。会議があることは情報提供させていただきますので、そうした機会も御利用いただければと思います。

#### 【福祉子どもみらい局長】

福祉機構が研究する対象について、中井やまゆり園は、重度の知的障害者入所施設ということもあり、知的障害者を中心とした研究から始めていくことになると思います。今後の展開については、議論をしながら広がっていくこともあると思いますが、スタートはそうした形になります。それから、委員の御就任について、町長にお力添えをいただいたことは改めてお礼を申し上げたいと思います。そういった中で、我々の取組がなかなか伝わっていないということは、今の話でよく分かりました。そこは我々に至らない点があったのかと思います。町長から勉強会というお話もありましたが、こういった情報の共有が足りていないということは認識しましたので、こういったやり方がいいのかということも含めて、コミュニケーションを取りながらやらせていただければと思っています。それから、施設見学のお話がありました。今の状況を肌で感じていただくことで、施設の状況を一番分かっていたいただけると思いますので、是非そういう場をセットさせていただきたいと思います。差し支えなければ日程など調整させていただいて、見ていただく場を用意させていただきます。

#### 【首藤副知事】

補足になりますが、福祉研究については、中井やまゆり園は知的障害者入所施設なので、まずはベースである知的障害の方を対象にしますが、その方々の健康管理やウェルビーイングを研究していくことは非常に汎用性が高いものです。認知症や精神障害の方々にも応用可能な知見が多く出てくると思っています。そういう意味では、福祉機構をまずはスタートさせ、研究するフィールドを作ることで、近未来的に、広がりがあると思っています。それからもう一つ重要なのは、本来プライオリティが一番高いのは認知症だということです。社会全体の関心も、やはりいつ自分が認知症になるか分からないということで、プライオリティを認知症、精神障害、知的障害の順に設定していたのですが、全ての順番を逆転させてしまったのは津久井やまゆり事件です。津久井やまゆり事件を生んでしまった神奈川県としては、全プライオリティをひっくり返して、知的障害をトップに置きました。しかし、そこは汎用性がある、来たるべき認知症社会に向け、今のままではサステナブルでないのは明らかなので、認知症や精神障害にも広げていきたいと考えています。

#### 【中井町長】

中井やまゆり園については、今回、改めて福祉機構という形でやっていただくことになりました。私が非常に感心したのは、当事者目線を貫かれる中で、熊谷先生のような、当事者の声を、心と同時に学問まで高めておられる方を取り上げていただいたことは非常に大きいと思います。その中で、声なき声をしっかりと受け止められるような状況を作っていただ

きたいと思います。そして同時に、働く人、支える支援者の側への支援も必要であると思います。中井町も地域として、手探りの状況ですが、40年来ずっと関わってきた女性の団体もありますし、新たに数年来、やまゆり園には農福連携、竹をテーマにしながら取り組んでいただいています。町民の皆様にも分かりやすく、また同時に参加型でできるように伝えていきたいと考えています。特に、働く人への支援について、改めてお伺いしたいと思います。

#### 【福祉子どもみらい局長】

中井やまゆり園は中井町にありますので、町長がおっしゃったとおり、色々な地域の活動があると思います。そこに利用者が参加して、地域の中で生きていく形を一緒に作っていただきたいと思います。また、働く支援者については、福祉機構で研究する中で、もちろん利用者の方々の望む暮らしを実現するということはあるのですが、当事者目線の支援の大事な一つの点として、支援する側も喜びを感じる、生き甲斐を感じるということが非常に大事だと思います。両方の心が高め合っていくことを実現していきたいので、そうした研究を福祉機構が行うようになっていくと思います。このようなことを情報提供させていただきながら、町長の課題認識など、情報交換させていただければと思います。

#### 【二宮町長】

フリースクールに通う児童生徒の支援について、二宮町も今年度から県の支援をいただき、町としても支援制度を始めることとしました。町内にもありますし、近隣のフリースクールに通っている当事者と、保護者の皆さんには、授業料からすればわずかかもしれませんが、大変ありがたいという声をいただいています。こうした形で、学校に通ってない子どもたちに、多様な学びの場をとという支援を大変ありがたいと思っていますので、お礼を申し上げます。

福祉機構については、二宮町は中井町のすぐ隣で地続きです。当事者研究というと、北海道の浦河町の「べてるの家」を思い出します。私自身も数年前に現地を視察してきましたことがあります。精神障害のある方が生活をされている中、朝のミーティングから拝見させていただき、障害を自分で克服していく、当事者として乗り越えていく、受け入れていくといったことを現地で体験させていただきました。そうした研究も福祉機構で進めていかれるのか、その成果なども中井町や二宮町など近隣にも共有して勉強したいと思います。町としても様々な協力を期待していますので、よろしく願いいたします。

#### 【福祉子どもみらい局長】

フリースクールについては、取組に御参加いただきありがとうございます。フリースクールに通う子どもたちの親御さんのお話を聞くと、自分の子どもが学校に行きたくても足が前に進まない、どこで悩んでいるか分からないなど、苦しみながら毎日を送っている方が非常に多いです。実は知事にも、別の自治体を見に行ってもらいました。子どもたちがどうし

たら自分らしく学んでいけるのかというところの一つの方法として、フリースクールは大事な居場所だと思っています。是非色々御活用いただき、課題等があればフィードバックいただいて、良いものにしていきたいと思いますので、引き続き御協力のほどよろしくお願い致します。

福祉機構については、研究の成果を皆さんに共有していくに当たって、具体的なイメージを伝えきれていなかったと反省しています。職員とも話しながら、一緒にどういう場を作っていけばいいかというところから話をさせていただき、研究成果の共有の仕方についても、これからコミュニケーションを取らせていただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

#### 【首藤副知事】

当事者研究というのは世界に冠たる研究で、我が国が発祥です。発祥したのは、「べてるの家」におられた向谷地さんという非常に有名な方が何十年か取り組んでこられ、それを学問として発展させていったのが熊谷先生です。世界に冠たる研究として東大でやっているとしてされており、その根っこは福祉機構と完全に一致しています。日本が世界に誇れる研究手法なので、それを県も取り入れて発展させていきたいと思っています。むしろ、これからは当事者研究でない研究自体は研究の意味がないのではないかとまで言われてきている状況になっていますので、非常に重要な取組だと思っています。

#### 【大磯町長】

私からは3点、全体に関わる話です。

1点目は、2月の意見交換会でもお話ししましたが、県立高校の体育館の空調についてです。大磯町には大磯高校があって、体育館が避難所になっているのに空調がありません。町立の小中学校の体育館の空調は、今年と来年で工事をする事になっていますが、町民からは、同じく避難所になっている大磯高校の体育館の空調整備はいつになるのかという要望が出ています。避難所になっていれば緊急防災・減災事業債の対象になるので、70パーセントの地方交付税措置があります。他の町村にも避難所になっている高校の体育館があると思いますので、重点的にやっていただけないかというのが1点目です。

2点目は、職員交流、職員派遣についてです。大磯町には保健師の大変有能な方を派遣していただいて本当にありがとうございます。ただ、以前は県税の職員に徴収対策の強化に来ていただいていたのですが、ちょっと前に制度がなくなってしまいました。他の町村にも波及すると思うのでお話ししますが、この県税職員の派遣の制度を復活できないのかというのが2点目です。

3点目はバスの減便についてです。バスの減便が、大磯町も他の町村も相次いでいると思います。大磯町ではタクシー券で代替していく、子どもたち用にバスを借り上げる、といった対策も取ってきていますが、県の方で、バス会社への支援と、市町村への支援の二つのや

り方が考えられると思いますが、来年度へ向けて、バスの減便対策を考えていただけないかというのが3点目です。

#### 【教育長】

県立高校の体育館については、2年ほど前に県として方針を変更しました。今までは既存の体育館ではそれほどエアコンは効かないという発想の中で、新しく建て替えるときに整備するという考え方でしたが、さすがにこの酷暑続きの夏を鑑みると、子どもたちの健康や、災害時に避難してきた方の健康等を考えれば、既存の体育館にも整備しなければならないと、完全に方向転換しました。昨年、設計調査を3校で行い、その3校は今年度整備を実施します。今年度は6校で設計しますが、このペースでは全体で130数校あり、何十年もかかってしまうことから、更にスピードアップさせるため、民間活力を使おうということで、今年度は全ての学校の体育館について、熱源は何が望ましいのか、インフラ、例えば電気やガスがどこまで来ているのか、そういったことを調査して、リース方式など最適な方向で、一気にやっていきたいと思っています。御指摘のとおり、避難所指定されたところは緊急防災・減災事業債が使えますので、そうしたところは直営でやるなど、県財政にもできるだけ負担をかけない形で、地域の方々に体育館にも空調をつけていくという方向を表明していますので、今年全校を調査して、どれくらいの割合で外部に委託できるのか、それによってペースが決まります。そこに向けて動き出していますので、御承知おきください。

#### 【総務局長】

県税職員については、昔は滞納額が多かったことから支援のために派遣していました。今は滞納額が減り、また、県庁の中にもノウハウを持った職員が少ない、県税の中にも職員がいないという状況もあって、いったん派遣をやめさせていただきましたが、そういった御意見がありますので、各県税事務所では、町村との情報共有を密にし、何かあれば相談に乗る体制になっています。そうした体制を通じて対応していただけたらと思います。

#### 【県土整備局長】

バス減便について、バスの運転手不足が社会問題になっています。県ではこれまでも財政支援を行い、昨年度は二つの新しい制度、生活交通対策運転手確保費補助金と、小型車転換の事業費補助金を作って、今、それぞれ活用いただいているところです。これは引き続きやっていきたいと思っています。また、昨年度も制度を更に拡充してほしいというお話がありました。今、御要望のあるところが、一通り活用が進んできましたら、そうしたことも考えていきたいと思っています。さらに、色々な運輸に対する助成金などもあり、運転手確保の施策にも使えるメニューになっていますので、バス事業者等を支援しているところです。さらに、バス運転手の取組を行っているバス事業者に対し、県も様々な周知や協力をさせていただき、一生懸命やっています。そうは言っても、まだまだ減便が続いています。地域交通研究会な

ど、市町村と一緒に課題を考える場を県土整備局で運営していますので、そうした場で地域の声を聴かせていただきながら、さらに何ができるかを考えていきたいと思います。

#### 【大磯町長】

バスについて、バス会社に対して色々やっているのに減便が起きているなら、バス会社に減便してはいけないということをちゃんと言っていた方がいいと思います。また、バス会社に援助しても減便が起きるのであれば、その対策を取っている市町村、特に町村部が多いので、町村に対して支援をしなければいけないことは明らかなです。今のお話だといつになるか分からないと思うのですが、来年度予算くらいの話で町村に対するバス減便対策をやってほしいです。

#### 【県土整備局長】

バス減便は色々な問題になっているので、最近活用いただいた補助金で、バス会社への採用があるなど実績も上がってきています。そうしたことをバス会社としっかり話をさせていただきながら、都会でも減便は起きていますが、地域の足として非常に大事なところは町村部にあると思いますので、重点的に考えさせていただくようにしたいと思います。

#### 【知事】

これは全国的、全県的な問題でもありますから、しっかりと今のお声を受け止めて、コミュニケーションを取りながらやっていきたいと思います。

#### 【松田町長】

私からは3点です。

1点目は専門職の派遣について、本当に感謝しています。保健師を派遣していただき、何とか町で一人確保できたので、他が困っているのであればということで、県と調整してお戻しすることができました。今回は、土木職という言葉がどうしても、建築をやっていた人間からすると、建築職がいなくていいのかと思います。土木職のカテゴリーの中に入っているのであればいいのですが、公共施設を多く持っている団体は、建築職がないで管理できるのかと思うところがあります。入っているのであれば、今後、確保して派遣していただくとありがたいと思います。

2点目は、水源環境保全税の活用の仕方です。今回は下水道の取組と書いてありますが、超過課税もしていただいて、感謝申し上げます。単独浄化槽を合併浄化槽に変えたりするときは、水源環境保全税を使うことができますが、そういった場所は段々人口が減ってきています。水源エリアに住んでいる方々が、実際のところ水源を守れなくなりつつあるということもありますので、できれば幅広くに水源環境を守るための人に対する費用、例えば町の水道が簡易水道なので、その簡易水道を国が少しサポートするという方向性は聞いてはいるの

ですが、可能であれば我々がもらった範囲の中で、裁量を我々に任せてもらうなど、県の選択肢の中で、保全するに当たって項目を言っていたいただければありがたいです。

3点目は、GREEN×EXPO 2027 についてです。足柄茶が昨年 100 周年を迎え、GREEN×EXPO 2027 開催時には 102 年になります。GREEN×EXPO 2027 に来た人たちが地域に波及するという話を以前聞いたと記憶していますが、5月2日辺りが毎年八十八夜を迎える前後なので、ちょうど期間中ですから、できればそうしたときに茶摘みの体験という形でやれるのならやっていきたいと思います。是非、そうした体験を外に発信するような、EXPO の場所だけではなく、他の地域との連携も図っていただけるような企画をしていただければ協力したいと思っていますので、よろしくお願いします。

#### 【政策局長】

専門職派遣については、いわゆる人材交流の派遣とは別に、専門職である保健師や土木職を派遣させていただいています。これは数年前始めたときに、幅広くはできない中で、どこを重点的にやるか、色々とヒアリングをさせていただいて、保健師と、建築職を含まない土木職のニーズが高かったので、保健師と土木職を派遣することとしました。建築職も全くニーズがないとは思っていませんが、そのときは重点化させていただいた中で土木職になったという状況です。今の御意見を踏まえ、建築職についてどういうニーズがあるのかも含めて、また検討させていただきたいと思います。

#### 【環境農政局長】

水源環境保全・再生施策については、皆様の御協力をいただき、おかげさまで無事、色々な計画などにまとめることができました。ありがとうございました。そうした中で、水源を守る人のための施策ということですが、水源環境保全・再生施策については、20年間の基本計画と、令和9年度からの5年間の実行計画を先日まとめたところであり、まずはその短期の5年間の中で、御意見いただいたようなことで何かできないか、もう少し具体的な内容を確認させていただきながら検討させていただければと思います。

#### 【松田町長】

簡易水道の維持管理費に使いたいのですが。

#### 【環境農政局長】

御意見として伺っておきます。

3点目の足柄茶について、100周年を迎えてちょうど来年は102年、5月2日は八十八夜で茶摘みの季節ということでした。GREEN×EXPO 2027 については、県内に来たお客様をGREEN×EXPO 2027 に誘客すること、GREEN×EXPO 2027 に来たお客様に県内を周遊してもらうことの2つの方向があると思っています。その2つ目の施策の中で検討したいと思いま

す。

#### 【文化スポーツ観光局長】

環境農政局長の説明のとおり、体験というのは非常に有効だと思います。今ちょうどDESTINATIONキャンペーンを横浜市、神奈川県、JR東日本でやっていますが、その中の特別企画で、色々な体験ものを集めています。また、来年、例えばGREEN×EXPO 2027に行くと、その後に茶摘み体験というのであれば、そうしたものも作っていきたくと思います。また、県の出展エリアの中で県産品のPRもやる予定ですので、その中で足柄茶も是非PRしていきたくと思います。

#### 【寒川町長】

企業庁の寒川浄水場の区域内には、町営プールやテニスコート、給食センター等を設置させていただいており、感謝申し上げます。ただ、第二浄水場が令和12年に機能廃止、第三浄水場は令和33年に機能廃止と少し長いスパンなのですが、まとまった土地がこれから機能を停止するということになりますと、県有施設の跡地の活用について、企業から進出したという声が多くなっています。第二浄水場も第三浄水場を合わせて東京ドーム2個分のスペースがあります。寒川町は非常にコンパクトな町域で、平坦な地形ではありますが、そうした土地柄で、企業からも適地はないか、土地は無いかといった話があるので、是非検討項目として考えていただきたいと思っています。町としてはスポーツエリアとして使いたい部分もありますが、まずは地域産業、工業的な土地利用が寒川町ではかなり主体になりますので、そうした部分の特徴を更に伸ばしていきたいと思うので、いずれまた、様々な要望の中でもお話ししようかと思いますが、御検討いただければと思います。

#### 【企業庁長】

浄水場の跡地は、上物がなくなっても、下に大きな水道管、これは送水管ですが、どうしようかという話もありますので、早い内から色々考えていかなければなりません。企業からしてみれば、逆に高圧線が入っていること、大きな水道管が入っているというメリットもありますので、整理して、地元ともお話ししながら、早い内から検討していきたいと思っています。

#### 【大磯町長】

GREEN×EXPO 2027の応援企画についてお話をしたいのですが、箱根駅伝は今、「俺たちの箱根駅伝」という小説が流行っていて、今年10月からドラマも放映されます。来年の1月の箱根駅伝はかなり視聴率がアップするのではないかと考えています。そうした中、ずっと映っている白バイに、GREEN×EXPO 2027のトゥンクトゥンクなどを付けたらいかがかなと思うのですが、いかがでしょうか。

【知事】

非常にいいアイデアだと思います。

【警察本部長】

白バイは、最近では特殊詐欺のキャッチコピーを付けています。箱根駅伝については、警視庁と神奈川県警の共同プロジェクトであり、そこで調整をした上で付けていますので、御提案は受け止めて、検討させていただきます。

【知事】

非常に具体的で分かりやすい、いい御提案になりました。この前、名探偵コナンの映画を見てきましたが、神奈川県警が全面的に出ていますので、その流れの中で GREEN×EXPO 2027 を盛り上げていきたいと思います。

率直な意見交換ができ、本当によかったと思います。県立福祉機構については一言、私なりの思いを言っておきたいと思います。未病の話のときに、白赤モデルからグラデーションモデルへと言っていました。健康か病気か、それがつながっているというグラデーション。実はグラデーションモデルは色々なところに使える話だと思っています。医療と福祉では世界が全然違います。医療は科学的なエビデンスを非常に求められますが、福祉の世界はそういったことはほとんど聞こえてこない、人間の思いや優しさでやっていくと。その壁を科学によって、データによって超えていこうというのが一つの大きな流れです。それから、健常者と障害者について、我々がかつて、ともに生きる社会かながわ憲章を取りまとめましたが、最初の案は「障害のある人もない人も」という表現でした。私はそういう言葉に非常に違和感を覚えました。障害が全くない人がいるのかということです。近眼で眼鏡をかけているのも、ある意味障害かもしれないし、高齢化で段々足腰が弱ってくるのも、ある種の障害でしょうから、健常者と障害者という位置付けではなく、グラデーションです。我々は「障害のある人」と「ない人」という表現を使わないようにしています。「障害の程度にかかわらず」という言い方をしているわけです。先ほど葉山町長から、福祉機構は障害者だけを対象にしているかという問いかけがありました。非常にいい問いかけだと思いますが、つながっているというのが我々の基本的な考えです。だから、障害の程度でも、重い障害の人の障害をどうやって見ていくのか、今まで我々が培ってきた様々な科学的アプローチが生きると思います。例えば、未病の中で出てきた新しいテクノロジーとして「ミモシス」、声の分析によって心の未病状態が分かる。知的障害の人たちの声を分析すると、何か訴えているけれども、言葉になっていない感情を表してくれます。そのデータをずっと取っていけば、その人が本当は何を言おうとしているかということも分かってくるかもしれません。そういう流れの中で、例えば認知症の人の初期の段階が声だけで分かるようなアプローチをしていますから、知的障害に目を向けて深く目を入れていくと、それが全部つながってくる、そういうことを期待しています。こうしたアプローチは今までどこにもなかったわけですか

ら、福祉を科学するというのは全く新しい福祉の地平を切り開いて、福祉のフロントランナーとしてやっていくという、思いを込めたことだと御理解いただきたいと思います。